

大阪府立
中之島図書館

— 難波津の まなかに植ゑし 知慧の木 —

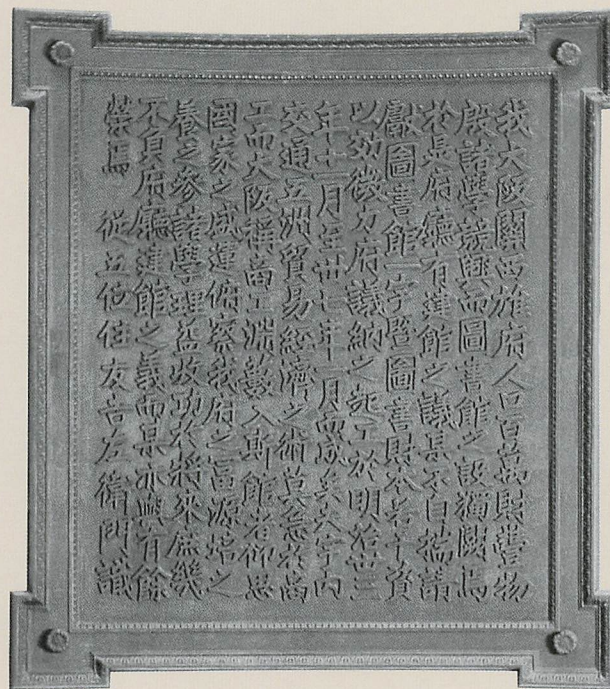


中之島図書館の前に立って正面玄関を見上げると、そこには右から左に「大阪図書館」の文字が読める。それは「大阪府立図書館」ではなく、あくまでも“大阪”図書館なのである。このことは、中之島図書館が開館した明治37年以前に、大阪に図書館らしい図書館が皆無だったことと無縁ではないと思われる。

図書館内部に入って、中央ホールに見られる巨大な銅板「建館寄付記」の中で、この図書館の寄付者であった住友家第15代吉左衛門氏は言う。

「我が大阪は関西の雄府にして、人口百万、財豊かに物殷んにして、諸学競い興る。而かして図書館の設独り焉を闕く……」

つまり大阪府は人口も多く、色々な物が揃っていて学問も盛んだが、図書館だけが無いというのである。このあと文章は、「図書館の建物と図書購入の基金を寄付して微力をつくしたい」と続くのだが、その意気や壮とすべきであろう。



建館寄付の趣旨を記した大銅板額

当時の中之島は、明治12年に公園地として指定を受け、30年代からは今でいう都市開発の一環として徐々に発展しつつあったというものの、まだまだ寂しいところであった。その寂しい場所にドームの先端まで77尺(23m余り)もある偉風堂々たる洋風大建築が出現したのだから、開館当初は本を読むより建物を見物に来た人の方が多かったと言われている程である。今風に言えば、まさに大阪における文化の起爆剤であった。時あたかも日露戦争が始まり、一方では夏目漱石が東大文学部で学生に講義をおこなっていた頃のことである。



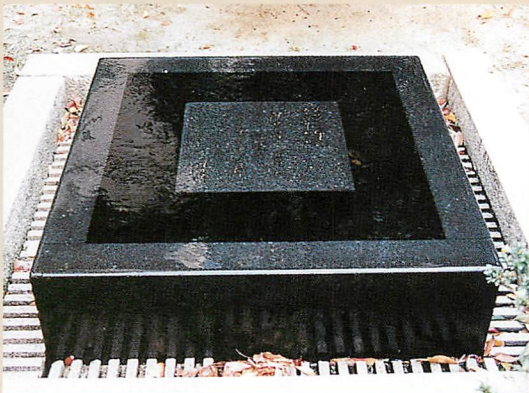
「明治36年8月挙行の上棟式に使われた『棟札（置札）』」

表の面（左）に施主住友吉左衛門の名に加えて、工事顧問として辰野金吾博士の名、設計・監督者の野口孫市・日高胖の両工学士などの名が墨書されている。

裏面（右）には、石工職・煉化職・大工職等の各種の職工の代表者の名が見える。

こうしてその歴史を刻み始めた中之島図書館だが、やがて我が国公共図書館界の一方の雄となって行く。昭和29年に創立50周年を迎えたとき、当館ゆかりの歌人川田順は、それを祝って次のうたを寄せた。館の正面脇にその歌碑がある。

『難波津の まなかに植ゑし 知慧の木は ^{いそとせ}五十年を経て 大樹となりぬ』



川田順が創立50周年に寄せた
賀歌の碑（館正面脇）

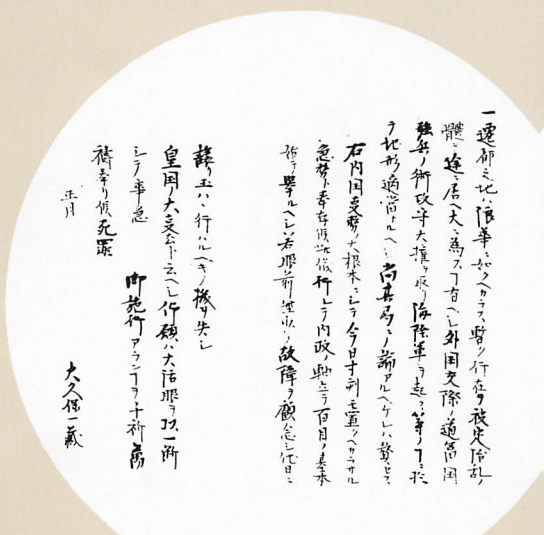


中央ホール廻廊へ通じる階段

そしてさらに星霜が流れて平成8年5月、東大阪市に府立中央図書館が開館したのに合わせて、中之島図書館はリニューアルして再スタートを切った。

新しい中之島図書館の特色は次の五つに要約される。

- 一に、「大阪資料のセンター」として、大阪関係資料を網羅的に提供
- 二に、「近世和漢書のセンター」として、江戸時代を中心とする和漢書の提供
- 三に、「公共図書館としての基本的サービス」として、一般的な資料の提供
- 四に、「中央図書館との協力体制」として、中之島・中央両館の所蔵資料の相互取り寄せによる提供
- 五に、「地域文化の活動センター」として、資料展示会や大阪文化に関連する講演会の開催



当館蔵「大坂遷都建白書」(部分)
(大久保利通自筆。慶応4年に利通は「遷都之地ハ浪華ニ如クヘカラス」と、新政府にふさわしい改革を進めるため、都を大坂に移すべしとの献策を行った。)



当館蔵「世間胸算用」
(井原西鶴著 元禄5年(1692年)刊)



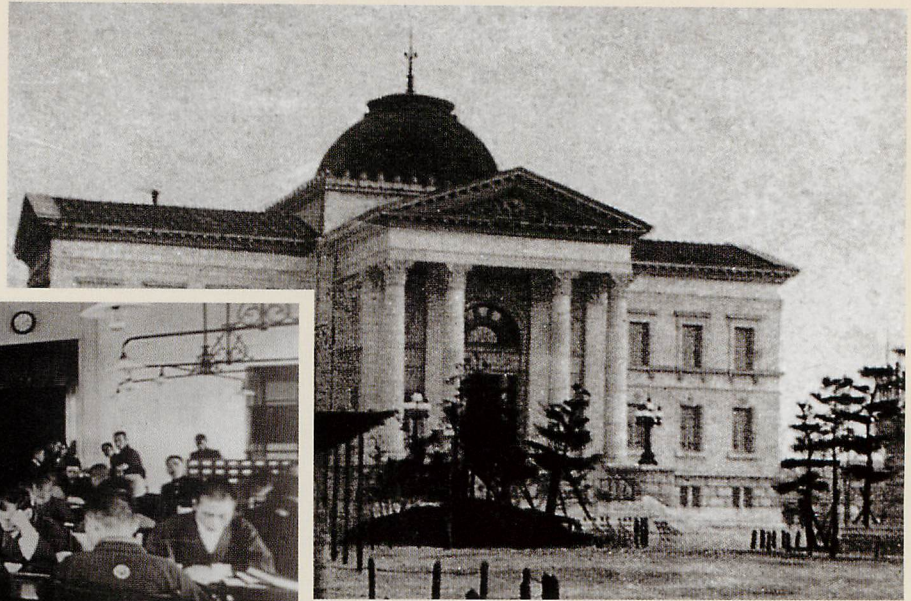
「資料展示会図録」

こうして再出発した中之島図書館だが、リニューアル後も、大阪随一の都市景観と交通の利便性もあいまって、相変わらず多くの利用者と賑わっている。

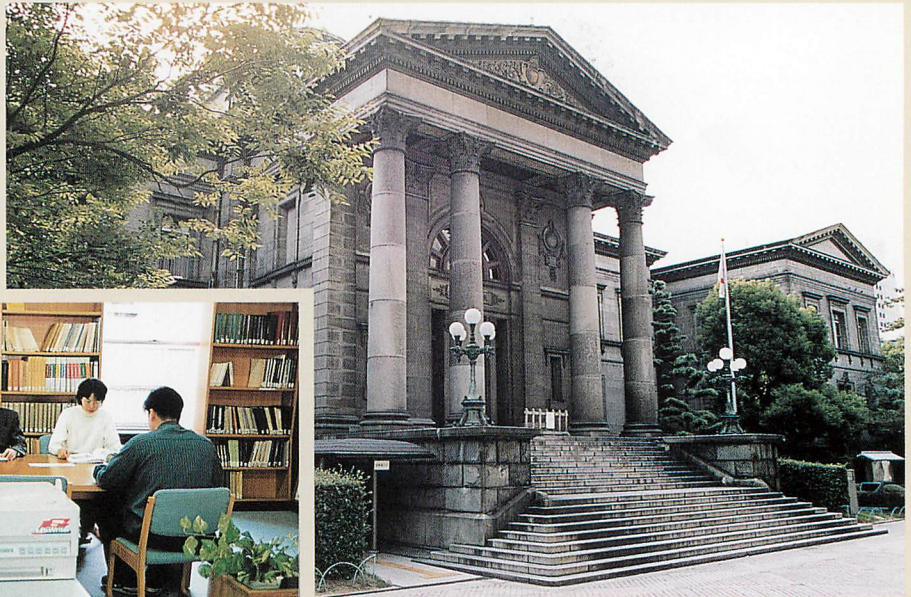
そして平成16年(2004年)には創立100周年を迎える。90有余年の風雪に耐えたネオバロックの館は、知識を求め学に志す人々を今日も待っている。

中之島図書館のあゆみ

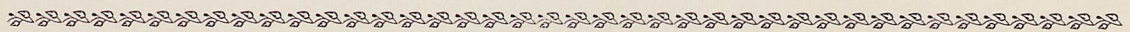
- 明治 33 年(1900) 2 月 住友家第 15 代家長・吉左衛門氏から大阪府に図書館の建物一式
並びに図書購入基金寄付の申出
- 3 月 大阪市より、中之島公園内の敷地の無償・永久供用が認められる
- 11 月 建築工事が開始される（設計・監督 野口孫市・日高 胖、
施工 住友本店臨時建築部）
- 37 年(1904) 2 月 建物竣工、開館式典挙行
- 3 月 「大阪図書館」開館
- 39 年(1906) 12 月 「大阪府立図書館」と改称
- 41 年(1908) 4 月 館外貸出制度を実施
- 大正 5 年(1916) 3 月 第 2 号書庫を増築
- 11 年(1922) 10 月 住友家より、左右両翼 2 棟の増築寄付を受ける
- 昭和 2 年(1927) 8 月 巡回文庫を開設、府下市町村に回付
- 10 月 第 3 号書庫を増築
- 25 年(1950) 8 月 旧大原社会問題研究所跡に天王寺分館を建設・開館
- 26 年(1951) 10 月 自動車文庫を開設、府下市町村を巡回
- 31 年(1956) 6 月 商工資料室新館を増築、講堂と商工資料室を開設
- 37 年(1962) 2 月 主題別開架閲覧制度を実施（我が国最初）
- 49 年(1974) 4 月 「大阪府立中之島図書館」と改称（天王寺分館は全面改築のうえ、
「夕陽丘図書館」として独立）
- 5 月 本館及び左右両翼の 2 棟が国の重要文化財に指定される
- 平成 8 年(1996) 5 月 リニューアルオープン（夕陽丘図書館を廃して、東大阪市に
「大阪府立中央図書館」建設・開館）



「創立当時の中之島図書館」
(左右両翼の建物はまだ無い)



「平成 10 年の中之島図書館」



編集・発行 大阪府立中之島図書館